

令和5年度沖縄県観光振興基金活用事業 効果検証一覧

資料1

活用目的	No.	事業名	事業概要		事業期間	R5 予算額 (千円)	R5 決算額 (千円)	成果指標				事業の検証				課題	課題を踏まえた今後の対応方針	担当部署	担当課	
			事業目的	事業内容及び活動指標				指標	単位	当初値 (時点)	目標値 (R6.3)	指標設定の 考え方	実績値 (R6.3)	実施結果	効果の説明					事業効果
<b>1 観光旅客の受入体制の充実強化</b>																				
	1	(1) 観光2次交通利用促進事業	沖縄観光の交通手段については、レンタカーが主流となっているものの、国際線の復便や車の免許を持たない観光客の観光2次交通を確保する。	繁忙期において、市町村や観光事業者・交通事業者が行う観光2次交通の確保に要する経費に対し、補助金を交付する。 (活動指標: 補助事業者10事業者)	R5 ~ R7	30,175	1,441	繁忙期(7月~9月)における利用者延べ数	人	-	90,000人		315人 (出典: 事業実績報告書より)	【補助事業者】琉球バス交通(JTB沖縄が交通企画券として販売)【運行期間】令和5年7月21日~令和5年8月20日【運行区間】波之上~国際通り入口~首里城【備考】台風6号により7日間、運休	バス乗務員不足が顕著となったことや台風6号の影響による運休期間の減等から当初想定していた補助件数や利用人数を下回ることとなったものの、事業実施により、観光客の交通利便性向上に一定の効果があったと考えられる。	③効果があった	沖縄観光の繁忙期の観光2次交通を確保するため、継続的に事業を実施していく必要がある。	文化観光スポーツ部	観光振興課	
	1	(2) 観光2次交通結節点機能強化事業	観光2次交通結節点を設け、レンタカーの貸渡場所の分散化を図る。	観光客が多く滞在する地域(エリア)等を観光2次交通結節点と位置付け、ホテルやレンタカーステーションを周遊する小型バス等を行う。 (活動指標: 結節点設置箇所2カ所以上)	R5 ~ R7	53,165	20,012	交通結節点のエリア数	カ所	0カ所	2カ所		0カ所	分散化等が可能な交通結節点のエリアを複数設置することとした。 中部エリア1、南部エリア1	北谷町内での交通結節点設置に向けて、北谷町役場や美浜アメリカンレジャーズ事業者等と調整を実施した。その結果、当初想定していた北谷町美浜駐車場内のエリアの見直し、事前調査、設置のための現地説明会等に時間を要したため、設置には至らなかった。	北谷町役場やアメリカンレジャーズ事業者等地域の関係機関や観光業界との調整を重ねながら、交通結節点の設置箇所、機能、運用方針等を定めることができ、次年度の設置に繋ぐことができた。	②相当程度効果があった	県が今後設置する観光2次交通結節点に関する観光客及び観光事業者への周知、多様な機能を発揮するための連携	文化観光スポーツ部	観光振興課
	1	(3) マリンレジャー事故防止調査対策事業	令和4年度に構築した海の安全啓発ツールを活用し、効果的な手法で情報発信を行い、観光客に対しては海の危険性及び正しい知識を周知し、事業者に対しては最新の事故情報及びヒヤリハット事例等を提供することで水難事故防止へと繋げることを目的とする。	(1)海の安全啓発ツールの周知(活動指標: 空港、ホテル、レンタカー等へポスター掲示、チラシ500枚配布、ポータルサイト閲覧件数500件) (2)海の安全啓発ツールの改善 (3)ビーチ等での安全講習会の実施(活動指標: 沖縄県域3エリア×9回=27回実施) (4)マリンレジャー事業者及び海岸管理者等との「水難事故防止」に関する意見交換会(活動指標: 本島北部、本島中南部、宮古、八重山の4区域別に各1回実施) (5)マリンレジャー事業者等向け海の安全対策セミナーの実施(活動指標: セミナーの実施1回)	R4~ R7	30,133	30,013	水難事故者数	件	106件 (出典: 沖縄県警察HP R4)	92件		116件 (出典: 沖縄県警察HP R5)	(1)海の安全啓発ツールの周知として、チラシ67,000部配布、ポータルサイト閲覧件数5,000件。 (2)水難事故やヒヤリハット情報431件を元に海の安全啓発ツールを制作した。 (3)ビーチ等での安全講習会の実施を56回実施した。 (4)事故情報の共有や海の安全啓発ツールに関して、海岸管理者等との圏域別意見交換会を4回実施した。 (5)マリンレジャー事業者等向け海の安全対策セミナーを1回実施した。	マリンレジャー事業者及び関係団体との意見交換会の実施や水難事故が多発している危険スポット等の調査業務を行うことで、水難事故の事故情報やヒヤリハット情報、パターンを整理し、観光客やマリンレジャー事業者が活用及び確認しやすいハザードマップ及びポータルサイトの制作に繋がった。関係機関(沖縄県警、ライフセービング協会、OMSB等)より当事業で制作した安全啓発ツールの活用について前向きな意見があったことから、今後の事業において効果的な連携が期待できる。	③効果があった	・観光客が確認しやすい場所(ホテル、空港、レンタカー等)にて周知する。 ・観光客が使いやすいよう、利用者が多い「LINE」等を活用し、PUSH型で観光客に事故情報を知りやすくする。 ・制作した安全啓発ツールをセミナー等で周知啓発を行う。	文化観光スポーツ部	観光振興課	

令和6年度沖縄県観光振興基金活用事業 効果検証一覧

資料1

活用目的	No.	事業名	事業概要		事業期間	R5 予算額 (千円)	R5 決算額 (千円)	成果指標				事業の検証				課題	課題を踏まえた今後の対応方針	担当部署	担当課	
			事業目的	事業内容及び活動指標				指標	単位	当初値 (時点)	目標値 (R6.3)	指標設定の 考え方	実績値 (R6.3)	実施結果	効果の説明					事業効果
1	(4)	観光人材確保支援事業	観光業界における従業員の労働環境の改善に向け、観光事業者の生産性向上に資する取組を支援するとともに、観光事業者と求職者のマッチングを促進することにより、観光業界の持続的発展に繋がる人材の確保を図る。	従業員の労働環境を改善し、人材の確保・定着を図るため、観光事業者の生産性向上に資する取組を支援することとしている。 また、県内宿泊施設、観光施設等における職場訓練や観光業界に特化した就職説明会の開催を通じて、観光事業者と求職者とのマッチング機会を創出するとともに、観光現場における様々な取組を伝える広報、就職イベントの周知に取り組みすることとしている。  (活動指標:労働生産性向上に資する取組の支援(補助)件数 15件)	R5～R7	248,994	188,315	職場訓練や観光現場における様々な取組を伝える広報等の実施により、観光業界への就職意欲が向上した割合	%	0%	80%	観光現場の魅力向上につながるような施策を行うことにより、観光産業への就職意欲の促進につながると思われことから、当該指標を設定する。 また、目標数値については、R4年度に実施した「沖縄観光貢献度可視化事業」の実績に基づき設定。	71% (出典:観光人材マッチング支援事業実施報告書)	(1)自動チェックイン機やお掃除ロボットの導入、システム構築など観光事業者の生産性向上に資する取組について、13社・92,394千円交付した。  (2)観光事業者と求職者とのマッチングに関して、 ①「県内外での合同就職説明会」の参加者275名 ②「職場見学バスツアー」の参加者114名 ③「職場訓練(インターン)」の参加者92名 延べ481名とマッチングを行い、3月末時点で延べ36名が就職し、127名が「就職したい企業が見つかった」とアンケート調査で回答している。  (3)観光現場における様々な取組を伝える広報については、令和4年度沖縄観光貢献度可視化事業の「みらい新聞」の取組を引き続き実施しており、観光現場で働く人を取材し、Webサイトや新聞紙面、SNS等において業界の魅力を発信した。	合同就職説明会や見学バスツアー、インターンの取組に関しては、全体の約8割が「観光業への就職意欲が高まった」と回答している。 一方で、広報の取組に関しては、観光業界に興味がない層にもアンケート調査を行っており、魅力が十分に伝わっていないことが想定され、成果指標の達成には至っていない。	②相当程度効果があった	広報に関する取組について、広報手段や内容の改善を図り、業界の魅力向上を図っていく必要がある。また、観光業界に興味を持ってもらう人材を養成できるよう、将来の沖縄観光を担う子ども達にも魅力を伝えていく必要がある。	今後も、引き続き、観光事業者と求職者のマッチングに向けた取組を行い、人材確保を支援するとともに、将来の沖縄観光の発展を担う人材の養成を図っていく。 また、広報の取組については、広報手段等を改善し、観光業界の魅力向上を図っていく。	文化観光スポーツ部	観光振興課
1	(5)	MICE受入体制強化等事業	全県的なMICE受入体制の強化、沖縄らしさを活用してMICE参加者の満足度の向上を図る。	・人材育成事業 (活動指標:講座8回) ・アドバイザー派遣事業 (活動指標:派遣20回) ・開催歓迎事業 (活動指標:支援180件) ※R4実績を加味して設定	R5～R7	43,065	40,283	①県外・海外からのインセンティブ旅行件数 ②国内・国際会議開催件数	件	①148件 (R3年) ②36件 (R3年) ※沖縄県MICE開催実態調査事業報告書	①1,200件 ②100件	当取組を推進し、主催者及び参加者の満足度向上を図ることで、沖縄県におけるMICEの持続的な発展に寄与することに繋がることが、この指標を設定する。 ・インセンティブ旅行 新型コロナウイルスの影響前の状況(R1年)の開催水準までの早期回復を果たすための取り組みを推進 (R1年度実績インセンティブ:1,191件) ・国内・国際会議 沖縄MICE振興戦略に定める目標値	① 588件 (R4年) ② 148件 (R4年) ※沖縄県MICE開催実態調査事業報告書	開催した研修8回の参加者はweb視聴も含めて延べ271回で、受講後のアンケート結果では参加者の98%がスキルアップ・能力向上の実感を持ったとの回答を得た。 また、開催歓迎支援実施後の主催者アンケートでは「大変満足・おおむね満足」という回答が約8割にのぼり、本事業を通じて主催者・参加者の満足度向上に貢献した。	②相当程度効果があった	・(2)のアドバイザー派遣について、コロナ禍後の需要回復に伴う多忙等により活用を申請する事業者が少ない。	・周知に課題があると考えられるため、各観光協会や幹事団体等に周知を依頼する。また、実施後の簡単な報告を告知や周知に使う。	文化観光スポーツ部	MICE推進課	

令和5年度沖縄県観光振興基金活用事業 効果検証一覧

資料1

活用目的	No.	事業名	事業概要		事業期間	R5 予算額 (千円)	R5 決算額 (千円)	成果指標				事業の検証				課題	課題を踏まえた今後の対応方針	担当部署	担当課	
			事業目的	事業内容及び活動指標				指標	単位	当初値 (時点)	目標値 (R6.3)	指標設定の 考え方	実績値 (R6.3)	実施結果	効果の説明					事業効果
<b>2 観光地における環境及び良好な景観の保全</b>																				
	2	(1) サンゴ礁保全再生活動促進事業	観光・レジャーの過剰な利用や不適切な利用(ダイビング等によるサンゴへの接触・踏みつけ、ダイビング船等のアンカリング、日焼け止めクリーム等化学物質による影響等)によりサンゴ礁への影響が懸念されていることから、現状の把握、必要な対策の検討、持続可能なツーリズムの推進のために観光客やレジャー事業者等への普及啓発等を行う。	・観光・レジャーの過剰な利用、不適切な利用によるサンゴ礁への影響について、課題の整理や資料収集、現地調査及び関係者ヒアリングの実施 (活動指標:現地調査等 3地域)  ・有識者で構成する検討委員会(仮)による適正利用の手引き書の骨子の検討。 (活動指標:検討委員会(仮)の開催 1回)	R5~R7	14,388	14,153	ダイビング船係留ブイ設置等によるサンゴ礁保全効果検証(モデル事業)実施地域の選定	地域	0地域 (R4年度)	1地域	観光・レジャーにおいて適正な利用を行う地域団体が増加することにより、サンゴの踏みつけやアンカリングによる破損事例が減少し、サンゴ礁生態系が保全されることにつながる。	1地域 (出典:令和5年度事業報告書)	・観光・レジャーの過剰な利用、不適切な利用によるサンゴ礁への影響について、課題の整理や資料収集、現地調査及び関係者ヒアリングを実施した。(活動実績:現地調査等 3地域) ・有識者で構成する検討委員会を設置し、適正利用に関する手引き書の骨子について検討を行った。(活動実績:検討委員会の開催 2回) ・係留ブイ設置によるサンゴ礁保全効果検証モデル事業の実施地域として、うるま市の平安座地区を候補として選定した。	令和6年度のモデル事業候補地の選定を実施したことや、観光やレジャーによる不適切な利用などの課題を整理することができたことから、相当程度効果があつたと判定した。	②相当程度効果があつた	サンゴ礁の適正利用についてどのようにすれば広く周知を図れるか検討する必要がある。 また、マリンレジャー団体がサンゴ礁の適正利用を行うための動機付けを検討する必要がある。	具体的な周知啓発の対象や、資料・広報の形態について検討を行うべくとも、サンゴ礁に配慮した活動が観光客に選ばれやすいような仕組みについて検討を行うっていく。	環境部	自然保護課
<b>3 観光の振興に通じる文化芸術の継承及び発展並びにスポーツの振興</b>																				
	3	(1) しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業	文化資源を活用した観光振興を図るため、国内外からの観光客の受入体制の強化を図るとともに、文化資源の掘り起こしと活動実態及び課題を把握し、商業・観光分野へのニーズ開拓及びマッチングを行う。	・「沖縄県伝統芸能祭」(屋内、文化財活用、ナイトコンテンツ等)を開催。 (活動指標:本島2回、離島1回開催) ・地域の伝統芸能団体に直接アプローチし、文化資源の掘り起こしと活動実態及び課題を把握し、活動支援を行う。 (活動指標:文化相談員1名配置) ・特設WEBページの開設 (活動指標:R5年度中に開設)	R5~R7	46,864	38,272	特設WEBサイトのページビュー数	件	0件	40,000件	地域の伝統芸能の紹介や動画を掲載したWEBサイトへのアクセス件数は、伝統芸能祭を通して県外・海外における認知度アップを測れる指標である他、地域の伝統芸能の活動が活発になり、注目されることが期待できると考えられるため、事業全体の成果を測る指標として設定する。目標値の設定は、令和3年度の「沖縄芸能WEB配信事業(OKINAWA LIVE SHOW)」と同等を目指す。	16,136件	・「沖縄県伝統芸能祭」(屋内、屋外)を3回(本島2回、離島1回)開催した。 ・地域の伝統芸能団体に直接アプローチし、文化資源の掘り起こしと活動実態及び課題を把握し、活動支援を行うため文化相談員1名を配置した。 ・特設WEBページをR5年12月に開設した。	・地域の芸能団体(296団体)にアンケート調査を実施し、ハンズオン支援希望団体(57団体)のカルテを作成した。また、15の芸能団体に「沖縄県伝統芸能祭」に出演してもらった。 ・「沖縄県伝統芸能祭」3公演の来場者は合計565人(内県外61人)となった。 ・アンケート結果によると45.9%の方が、始めて見る芸能であり、92.1%が公演内容について「良かった」と回答があった。 ・成果指標(特設WEBサイトのページビュー数)の達成率は40%と未達成となったが、アンケート結果によりイベント参加者からは高い評価を得ていることから、観光コンテンツ化に効果があつたものと考えられる。	②相当程度効果があつた	・「沖縄県伝統芸能祭」3公演の県外来場者は1割程度(61人/565人)となった。 ・県外・国外の観光客の集客が課題となった。	・国内外の観光客の集客アップのために、広報を強化する。 ・引き続き、地域の伝統芸能団体に直接アプローチし、文化資源の掘り起こしと活動実態及び課題を把握し、活動支援を行う。	文化観光スポーツ部	文化振興課

令和6年度沖縄県観光振興基金活用事業 効果検証一覧

活用目的	No.	事業名	事業概要		事業期間	R5 予算額 (千円)	R5 決算額 (千円)	成果指標				事業の検証				課題		資料1		
			事業目的	事業内容及び活動指標				指標	単位	当初値 (時点)	目標値 (R6.3)	指標設定の 考え方	実績値 (R6.3)	実施結果	効果の説明	事業効果	課題	課題を踏まえた 今後の対応方針	担当部 局	担当課
	3	(2) 空手ツーリズム受入体制構築事業	<p>沖縄空手を文化観光資源として活用した「空手ツーリズム」を推進し、国内外からの空手愛好家や観光客の受入体制構築及び強化を図る各取組を行うことにより、沖縄空手の持続的な発展、観光産業に寄与する。</p> <p>・来県中の空手愛好家を含めた観光客のニーズに応じた空手観光プログラム等の案内</p> <p>・沖縄空手ガイドの利用促進に係る取組の実施</p> <p>・沖縄空手を活用した観光コンテンツの作成に対する補助 (活動指標: 2件)</p>	<p>R5~R7</p> <p>22,169</p> <p>17,215</p>	<p>県外・海外からの空手関係者来訪数</p> <p>人</p> <p>1,971人 (令和4年度)</p> <p>(出典: 県が主催するイベントの参加者数や沖縄空手会館への来館者数を集計)</p> <p>4,700人 (令和5年度)</p>	<p>当取組を推進し、県外・海外からの空手関係者来訪数の増加を図ることで、沖縄空手の持続的な発展、観光産業に寄与することに繋がることから、この指標を設定する。</p>	<p>9,228人 (令和5年度)</p> <p>(出典: 県が主催するイベントの参加者数や沖縄空手会館への来館者数を集計)</p>	<p>・空手に関する観光窓口(空手ツーリズムウェブサイト)を開設し、空手関連史跡の紹介や観光事業者等が行う空手観光コンテンツの案内等を実施した。</p> <p>・沖縄空手ガイドの実態調査を行うとともに、旅行会社等へのコーディネートを実施した。</p> <p>・空手観光コンテンツの作成支援(2件)を行い、活動指標を達成した。</p>	<p>・空手ツーリズムホームページを制作したことにより、観光客から空手愛好家まで、幅広い層に対応できる商品等を案内できた。</p> <p>・沖縄空手ガイドの実態調査によって、ガイドの実働状況や課題等を確認できた。</p> <p>・作成した空手観光コンテンツに国内外からの観光客等が参加し、沖縄空手の普及・啓発に繋がった。</p>	<p>②相当程度効果があった</p>	<p>・令和6年度は、空手を目的に来訪する団体を対象としたおもてなし支援を行うこととしており、支援の一つとして、空手ガイドの派遣を行うことにより、空手ガイドを国内外にPRすることに繋がっており、空手ガイドのニーズ増加を図る。</p> <p>・より多くの観光事業者が空手観光商品を取り扱えるよう、令和6年度も引き続き、空手観光コンテンツの作成支援を行う。</p>	<p>・令和6年度は、空手ガイドを令和3年度から養成しているが、実際にガイドの実働人数が少ない。</p> <p>・空手観光コンテンツを販売している会社が少なく、商品のバリエーションを今後増やしていく必要がある。</p>	<p>文化観光スポーツ部</p>	<p>空手振興課</p>						
	3	(3) 新たなアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツ創出事業	<p>「スポーツアイランド沖縄」の形成に向け、スポーツを通じた地域・経済の活性化を推進するため、新たなアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツを創出するなど、地域資源とスポーツが融合した観光への取り組みを支援する。</p> <p>・モデル事業への補助 (活動指標: 事業採択: 5件)</p>	<p>R5~7</p> <p>26,425</p> <p>10,173</p>	<p>・モデル事業の商品化</p> <p>件</p> <p>—</p> <p>1件</p>	<p>モデル事業が商品化することは、地域・経済の活性化につながり、「スポーツアイランド沖縄」の形成に資することから、この指標を設定する。</p>	<p>2件</p>	<p>令和5年度は3件の事業を採択し、補助金を交付した。</p>	<p>令和5年度に補助金を交付した3事業のうち、既に2事業が商品化している。</p>	<p>①非常に効果的であった</p>	<p>補助事業の認知が不足しているため、引き続き情報発信に努め、補助事業への応募数を増加させる必要がある。</p>	<p>令和6年度においては、公募時期の早期化、広報媒体への掲載及び関係団体への周知等、情報発信の強化に取り組み、応募数増加を図る。</p>	<p>文化観光スポーツ部</p>	<p>スポーツ振興課</p>						
4 地域社会の持続可能な発展を通じた国内外からの観光旅行の推進																				
	4	(1) サステナブルツーリズム推進事業	<p>「世界から選ばれる持続可能な観光地」を形成するため、サステナブルツーリズムを推進するとともに、旅行者と地域住民が沖縄観光の価値を共有し、自然環境、地域文化、生活環境への影響に十分配慮したレスポンスブルツーリズムに取り組む仕組みづくりを構築する。</p> <p>また、沖縄ならではのサステナブルツーリズム推進体制の構築及びサステナブルツーリズムを推進していく人材を育成することを目的とする。</p> <p>①検討委員会の開催 (活動指標: 年3回実施)</p> <p>②地域観光課題解決支援 (活動指標: 沖縄本島12回、離島2回)</p> <p>③普及啓発活動 (活動指標: シンポジウムの開催1回)</p>	<p>R5~R7</p> <p>11,984</p> <p>11,984</p>	<p>持続可能な観光を推進するための取組が行われていると感じた観光客の割合</p> <p>%</p> <p>40.7% (R3年度)</p> <p>(出典: R3年度観光統計実態調査[R4.10]公表)</p> <p>50%</p>	<p>県民・観光客・観光事業者のそれぞれの目線で持続可能な観光に係る満足度を成果指標とする。サステナブルツーリズムを推進することにより、持続可能な観光に係る満足度の向上につながるから、成果指標として設定した。</p>	<p>42.2% (R4年度)</p> <p>(出典: R4年度観光統計実態調査[R5.10]公表)</p>	<p>サステナブルツーリズム推進事業では、検討委員会を3回、普及啓発活動としてワークショップを2回開催した。また、地域観光課題解決支援として、沖縄本島で21回、離島で4回発言及び指導を行うなど、関係者や関係機関との連携を促進した。</p>	<p>関係者や関係機関との連携を促進したことにより、県民・観光客・観光事業者それぞれの取組が持続可能な観光に繋がったといえる。</p>	<p>②相当程度効果があった</p>	<p>サステナブルツーリズムを推進するため、県内の実態を把握するとともに、推進に弊害となっていない観光諸問題を解決する必要がある。</p>	<p>関係者や関係機関との有識者会議を継続するとともに、県内の実態把握を行い、実態に応じて専門家を派遣や相談窓口の設置を行うなどして、地域に根付いた取組を行う。</p>	<p>文化観光スポーツ部</p>	<p>観光振興課</p>						